

＜小学校 道德＞

生 き る 力 を 育 て る 道 徳 教 育

—道德性の育成を図るクロスカリキュラムの単元構成を通して—

大里村立大里南小学校教諭 與那嶺 靖

目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究の仮説	1
III	研究構想図	2
IV	研究内容	3
1	道德教育がめざす「生きる力」	3
2	学校における道德教育の役割	3
3	クロスカリキュラムによる単元構成	3
(1)	クロスカリキュラムの考え方	3
(2)	クロスカリキュラムの効果	3
(3)	教科、特別活動と道德の時間との関連	4
(4)	道德の時間の位置付け方とその役割	4
(5)	自主的に学ぶことができる「学び方」の5段階	4
4	クロスカリキュラムにおける道德の時間の指導	5
(1)	授業の指導過程での資料とその過程	5
(2)	発問の工夫	5
V	授業実践	5
1	総合単元名	5
2	総合単元設定の理由	5
3	目標	6
4	題材構造図	6
5	主題名	7
6	主題設定の理由	7
7	主題の指導目標	7
8	指導計画	7
9	「祖母の小さな実践から」で育てたい学力とその評価	8
(1)	本時の指導目標	8
(2)	授業の仮説	8
(3)	展開	8
(4)	授業仮説の考察	9
VI	研究の成果と課題	10

〈小学校 道徳〉

生きる力を育てる道徳教育

－道徳性の育成を図るクロスカリキュラムの単元構成を通して－

大里村立大里南小学校教諭

與那嶺

靖

I 研究テーマ設定の理由

平成10年学習指導要領が改訂となり道徳教育がこれまで以上に重要視された。道徳教育を進めるに当たっては、豊かな体験を通して、児童の内面に根ざした道徳性の育成を図られるよう配慮しながら生きる力を育てることが大切となる。

しかし、これまでの道徳の授業では、テレビ視聴や読み物資料に頼りすぎる指導になりがちであり、学校内外における様々な体験を生かした児童の内面にはたらきかけていく指導が、十分になされていないように思う。児童にとっては、「道徳の時間の流れ方は、どれも同じように見えて面白さがない」などの声が聞こえてくる。一方教師の側から見た時、教師が徳目を押し付けているような気がする。道徳の時間は、週一時間という時間の制約があるために、教師も児童の変容がつかみにくい。

本校で体験に関する児童の実態調査をした結果、木の实をとって食べたことがない児童が39.3%かまやなたで物を切ったり割ったりしたことがない児童が52.7%ボランティア活動に参加したことのない児童が61.3%という結果であった。体験を通して得られるさまざまな感動や生活の知恵などを身につけることが期待しにくくなっている状況である。体験活動の不足を補うためには、教師が積極的に体験活動を学習の中に取り入れることが大切となる。

生きる力を育てる道徳教育をめざすためには、道徳の時間が孤立した時間でなく全教育活動を通して各教科、特別活動と相互に密接な関連を図らなければいけない。さらに、体験学習を取り入れ意図的、計画的、発展的に指導することによって児童一人ひとりのより確かな道徳的实践力が育ち、生きて働く力となるものと考えられる。

また、環境問題や国際理解等を教科、道徳、特別活動の枠組みの中で個々に指導しているだけでは、児童の思考に沿った活動を展開することが難しい。教科、道徳、特別活動から関連する単元や題材を出し合うことで児童にとってわかりやすい学習が構成できないかと考え、クロスカリキュラムという教育方法に着目した。クロスカリキュラムを取り入れることにより一つの学習では、断片的で面的であった見方や考え方が広がったり、深まったりと統一的、多面的になる。

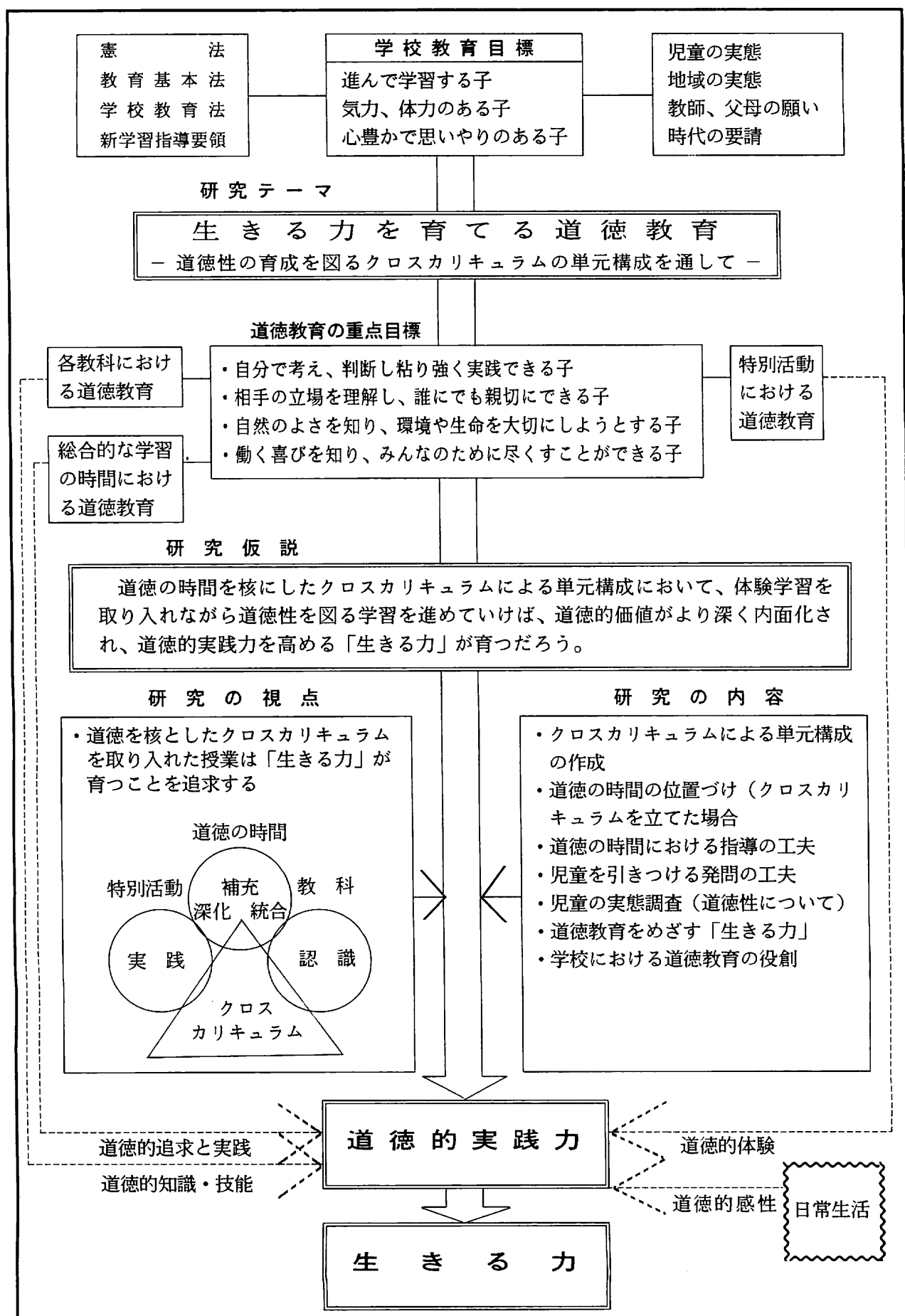
そこで、本研究では、総合単元として道徳を核とした環境問題を題材として設定した。国語、社会、ゆとりの時間では、環境問題について、調べ学習や環境子ども会議などの学習を取り入れる。道徳の時間では、環境に関する資料を使い自然保護という広い視野に立って理解を深める。さらに、学級活動でボランティア活動として「大里クリーン作戦」を実践する。図工では、「リサイクルコースター作り」を通してリサイクルの大切さを楽しみながら学ぶ。そして、まとめとして、ゆとりの時間を使い「地球にやさしく」についての報告会を持つ。

以上の単元構成から児童が体験活動を通して、内面に根ざした道徳性が図られ生きる力が育つものと思いい本テーマを設定した。

II 研究仮説

道徳の時間を核にしたクロスカリキュラムによる単元構成において、体験学習を取り入れながら道徳性を図る学習を進めていけば、道徳的価値がより深く内面化され道徳的实践力を高め「生きる力」が育つであろう

Ⅲ 研究構想図



1 道徳教育がめざす「生きる力」

「生きる力」とは、変化の激しい社会においていかなる場面でも他人と協調しつつ自律的に社会生活を送れるようになるために必要な人間としての実践的な力であり、豊かな人間性を重要な要素とする。

①美しいものや自然に感動する心

③生命を大切にし、人権を尊重する心などの基本的な倫理観

④他人を思いやる心や社会貢献の精神

⑥他人との共生や異質なもののへの寛容

などの感性や心、道徳的価値であるととらえる。このような力を育てるのが道徳教育である。

学校における道德教育の役割は、道德性を育成することである。道德性は道德的心情、道德的判断、道德的实践意欲と態度という要素で構成されている。道德的心情は、よいことをしたときによかったと思える感情のことである。人の美しい行為に感動する心の働きのことであり、悪いことをしたときには悔いに思ふ感情のことである。道德的判断力とは、善悪を判断するときに必要な判断基準となる考え方のことである。实践意欲とは、良いと思ったことを実行しようとする意思の強さのことである。道德的な態度とは、これらのものが外に表れている様子のことである。

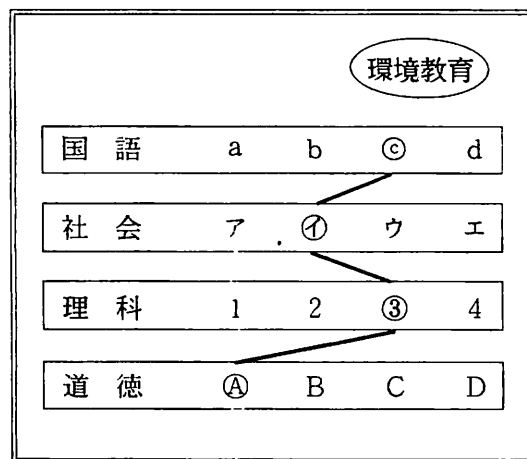
また、道徳性の発達には、豊かな体験を通して児童の内面に根ざした道徳性の育成が図られるよう配慮しなければならない。豊かな体験とは、豊かな心の育成につながる体験であり、人間としての在り方や生き方の自覚を促す体験である。豊かに感じる心がなければ、豊かな体験が内面化しない。

図1. <クロスカリキュラム>

(1) クロスカリキュラムの考え方

右の図1は、環境教育をクロスカリキュラムという手法をもって総合単元を構成した。各教科、道徳、特別活動の中で環境についての内容が組まれている単元を児童がわかりやすいように再構成する。

例えば国語ではC単元、社会ではイ単元、理科では3単元、道徳ではA単元をそれぞれの単元のねらい、内容は変えずに各単元を同時期に集約して関連的、有機的に構断する学習活動を展開するものである。



(総合的な学習の創造より)

○道徳の時間を核としたクロスカリキュラムを進めていくとこれまでの道徳の時間と比べて、児童自身に体験活動が多くなり振り返りの時間が増えいろいろな方向から自己を見つめなおすことができる。

○特別活動などの生活に近い学習を組み入れることが可能であるため、児童が参加する機会を作りやすい。

○学習内容を関連づけると、一つの学習では断片的で面的であった見方や考え方が広がったり深まったりと統一的、多面的になる。

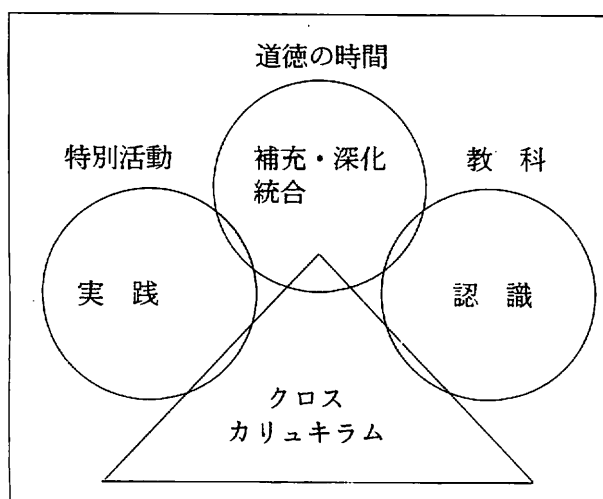
○児童がある活動に意欲的に取り組むとき関連のある他の活動にも意欲が移り、また意欲を高め意欲を持続させる。

○児童の願いや思考の流れが教科等によってさえぎられることなく自由に広がり、児童の思考に沿った活動が展開できる。

○教科等の学習内容を関連付けることで、授業時数の軽減を図ることができる。その軽減された時数の中で、児童は追求活動を十分に行い、教師も支援活動を十分に行うことができる。

(3) 教科、特別活動と道德の時間との関連

図2 <教科、特別活動と道德の関連>



左の図2は、クロスカリキュラムを立てたときの教科、特別活動と道德の時間との関連を図った構図である。教科では、道德的価値についての知識を広げ理解を深め道德性を認識する。また週一時間の道德の時間では、児童がある特定の場面や資料を土俵として学び合い自己を見つめる目を豊かにしていきながら道德的価値の補充・深化・統合をしていく。

そこで、内面化された道德的実践力が、自主的、実践的な態度を育てる特別活動で具体的に実践化される。また逆に特別活動での道德的実践が、道德の時間で内面的に深められ、道德的価値の自覚がいっそう促されるという多方向の相乗効果的な作用がある。

このように、クロスカリキュラムを取り入れることにより教科で道德的価値の認識が深まり、特別活動で道德的実践が高まって、道德性が身について生きる力が育つ。

(4) 道德の時間の位置付け方とその役割

①単元の入り口に位置づく場合

児童は、今までの自分を振り返ることを通してこれから取り組んでいく課題を意識したりやってみようという意欲を持ったりする。

②単元の途中に位置づく場合

児童は、ある内容項目を深めたりさらに広げて発展させたりする。

③単元の出口に位置づく場合

児童は、「自分のやってきたこと、みんながやってきたことに値打ちがあったんだ」ということを再確認し、満足感や充実感を抱く。

(5) 自主的に学ぶことができる「学び方」の5段階 表1

段 階	過 程	内 容
第一段階	気 付 く	・児童全員でテーマ(環境問題)について、共通理解を進め大まかな課題を立てる。
第二段階	つ か む	・自分の調べる課題を鮮明にし、友達の課題と比べたりつながりを考えたりしながら学習活動の流れを見通す。
第三段階	調 べ る	・自分たちの力で環境施設、リサイクルセンター、リサイクル推進者を訪問したり学級のゴミ調べ、雨水のPH調べ、川のゴミ調べなど地域に出かけたりしながら課題を調べ環境新聞を作成する。
第四段階	深 め る	・これまで学習してきたことを道德の時間で振り返り、学級活動で話し合い自分たちができる奉仕活動を考え体験する。
第五段階	広 げ る	・テーマについて自分で調べたことや体験したことを個性的なまとめや発表を計画し、父母へ一対一の対話で語りこの学習の成果を分かち合う。

4 クロスカリキュラムによる道徳の時間の指導の工夫

道徳の時間は、徳目を解説して教え込む時間でもテレビを見せる時間でもない。自分を見つめてみる時間である。つまり、「より高められた価値観に照らして、今までの自分はどうかであったかを見つめる時間」である。ねらいとしての価値に対して、児童の実態とねらいとの関係を把握し、そこでどのような資料を用いるべきかを決定する。児童の実態を資料を通して、より高められた価値観に引き上げられるように資料を活用する。

(1) 授業の指導過程での資料とその活用

導入の段階

道徳の授業の導入段階は、「授業のねらいとする道徳的価値を児童が、自分自身の問題（課題）として受け止め、考えを深めるように動機付けをする段階なので、前事で学んだ学習を思い起こす。

そのときの資料の条件として

- 児童が自分の問題（課題）としてとらえることができる資料
- 児童の興味や発達に応じた親近感の持てる資料
- 実態を把握させる資料（写真やVTRで現状が一目で理解できるような資料）

展開の段階

道徳の授業における展開の段階は、三つの出会いをする。ア、資料中の主人公に出会う。イ、友達の考えに出会う。ウ、新たに見えてきた自分の姿に出会う。そのときの資料の条件として

- 主人公の葛藤などが浮き彫りになっている資料
- 心情の展開に起伏とメリハリのあるわかりやすい資料
- 児童の心に残る感動性のある資料
- 多様な価値観が引き出され深く考えさせる資料

終末の段階

道徳の授業の終末は、道徳的価値を再認識し「自分もやってみよう、やらないといけない」と自身自身に振り返り道徳的实践力へと結びつける段階である。そのときの資料の条件として

- 一人一人の気づきがありそれによって意識が高まり道徳的实践力が育まれる資料
- 道徳的価値をいろいろな角度からとらえ視野を広げていくことができる資料

(2) 発問の工夫

道徳を核にしたクロスカリキュラムを進めていくと、これまでの道徳の時間と比べて振り返りでの児童の発言が豊かになる。児童自身の体験がたくさんあるので、児童自身の「このことについて振り返ればいいのだな」といろいろな方向から振り返ることができるよさがある。そこで、指導過程の各段階における発問の役割として

導入段階・・○主題にかかわる課題に気づかせる。○ねらいとする道徳的価値に目を向けさせる。

○課題解決への意欲をおこさせる。

展開段階・・○資料における主人公などの行為について追求し主人公に託して児童一人ひとりの考え方、感じ方を明確にさせる。

○本時のねらいとする価値について児童一人ひとりがどのような深まりの中で考えていたかを自覚させる。

終末段階・・○把握した道徳的価値を明確にさせる。○学習した道徳的価値を今後実践しようとする意欲を持たせる。

V 授 業 実 践

1 総合単元名 地球にやさしく

2 総合単元設定の理由

環境問題というとオゾン層破壊、熱帯雨林破壊の問題など児童にとって理解しにくい内容がよく新聞でも取り上げられている。しかし、児童の身近なところに環境問題は、たくさんあり自分との関わりの

なかで考えていけるようにしなくては単なる環境問題の知的理解に終わってしまう。環境問題は、一教科、領域だけで考えるのではなく総合的に学習し一人ひとりの児童が環境問題へ具体的な関わりを持つことが大切である。

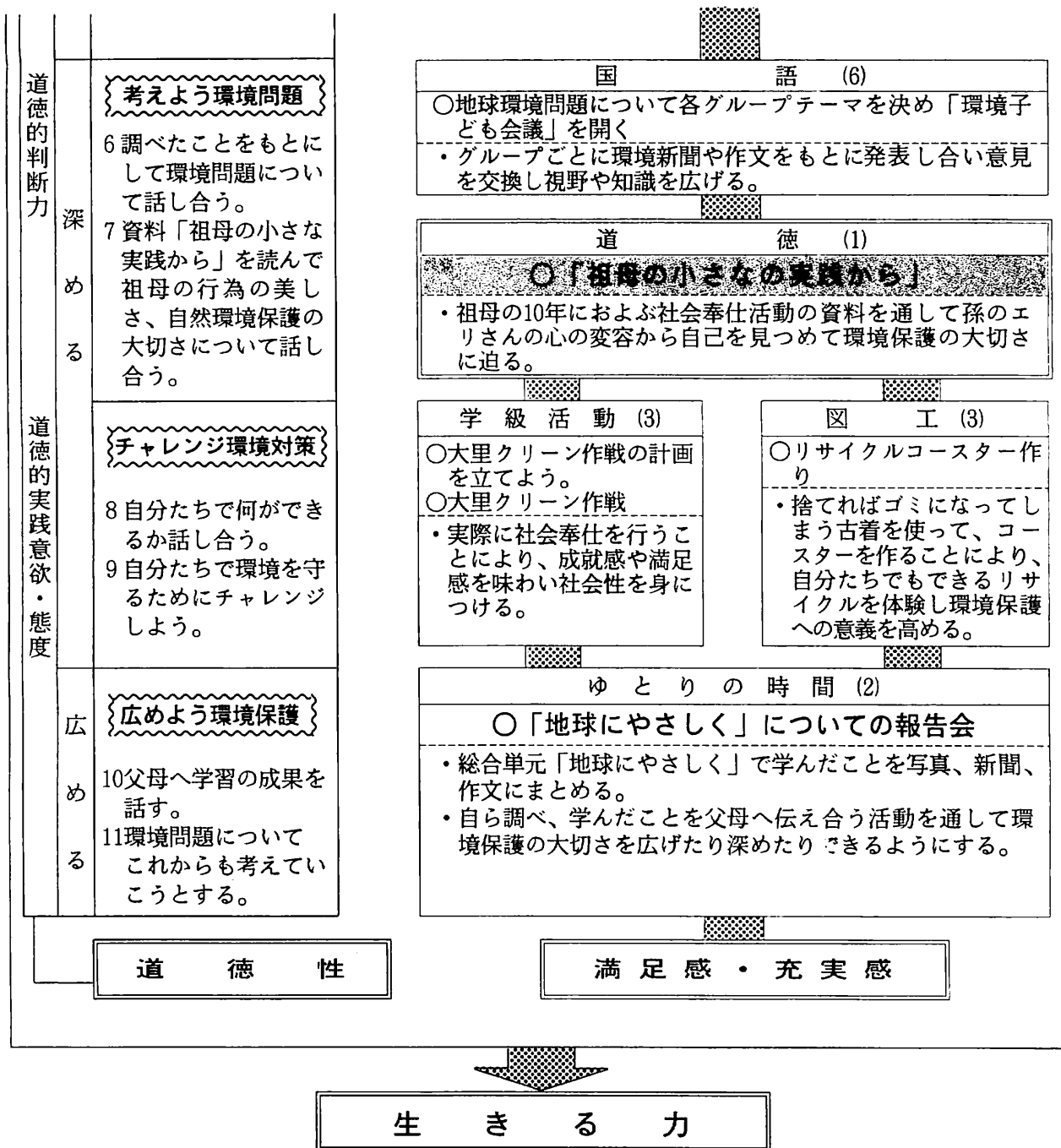
そこで、身近な問題であるゴミ問題に視点をあてクロスカリキュラムを立て環境問題を考えていきたい。クロスカリキュラムを立てるにあたって各教科・領域の内容として国語では、「一秒が一年をこわす」を読むことにより、環境を悪化させたのは、地球年齢を一年としたときに対しわずか一秒間の出来事であることを知る。社会科「公害を防ぐ努力」で地球環境を守るために家庭や地域ではどのようなことができるか、という疑問をいただく。ゆとりの時間では、学校の近くを流れているのは川や雨水のPH調べを行う。その後、環境子ども会議をひらいて各教科で調べたことを発表し合いディスカッションする。道徳の時間は、東村に住むおばあちゃんが10年以上続けている社会奉仕（ゴミ拾い）をテーマに孫が書いた作文を道徳の資料に取り上げ環境問題についての内面化を図る。学級活動では、主体的に自然を守っていきこうという試み社会奉仕活動「大里クリーン作戦」を取り上げる。図工では、「リサイクル作品作り」を行う。いろいろな方向から環境問題に関わることにより地球環境について興味・関心が高まり地球環境を守るため自分にできることはないだろうかと行動を開始する。

そして、児童は、自然保護を呼びかけるために今まで学習してきた知識、感動や驚きを父母へ対面で伝える報告会を開く。児童は、自然保護の大切さを考え自分なりの課題を持って環境に対する見方や考え方を深めていくと考え総合単元「地球にやさしく」を設定した。

- 3 目標 環境問題について関心をもち、まず、自分達の地域からよりよくしていこうという心情を高め、実践活動を通して主体的に自然を守っていきこうとする態度を育てる。

4 単元構造図

価値過程		学 習 活 動	○は単元名、項目 ・は学習の視点 ()は時数								
道徳	気づく	環境問題ってなあに 1 国語、社会の中にある環境問題にふれる。 2 環境問題はたくさんあることをつかむ。	国 語 (6) ○一秒が一生をこわす ○わたしたちの生きる地球 ・二つの教材から筆者の意図を知り、地球環境について資料を調べまとめて地球について真剣に考える。		社 会 (4) ○おそろしい公害 ○公害をふせぐための努力 ・公害の被害を話し合い環境について調べる。 ・公害をより身近なものとしてとらえ「自分の身の回りには、公害はないか」「自分たちにできることは何か」という意識を持つ。						
	つかむ										
的 心 情	調	調べよう環境問題 3 身の回りにある環境問題を探そう。 4 施設や図書館へ行って資料や体験活動をして環境問題を調べる。 5 新聞作りをする。	調 べ 学 習 (8) <table border="1"> <tr> <th>国 語 (3)</th> <th>社 会 (3)</th> <th>ゆとりの時間 (2)</th> </tr> <tr> <td> ○森林破壊 ○大気汚染 ○水質汚染 ○ゴミ問題 </td> <td> ○のは川のゴミ調べ ○学級のゴミ調べ ○大里のゴミはどこへ ○リサイクルプラザ見学 ○兼濱さんのリサイクル ○環境科学センター見学 </td> <td> ○学校の周りの生き物調べ ○雨水のPH調べ </td> </tr> </table> ・児童の環境問題への関心をさらに深めるために、インタビューや観察、調査、図書館へ出かけ調べる活動の中で身の回りの環境問題を実感させる。 ・地域の専門家にインタビューすることで自らの課題に対する疑問点を解決する。 ・実際に自らの足で出かけ、実地に資料を収集したり相手と触れ合ったりする体験活動を行なうことにより豊かな人間性を培う。 ・壁新聞、印刷新聞作りや作文にまとめる。			国 語 (3)	社 会 (3)	ゆとりの時間 (2)	○森林破壊 ○大気汚染 ○水質汚染 ○ゴミ問題	○のは川のゴミ調べ ○学級のゴミ調べ ○大里のゴミはどこへ ○リサイクルプラザ見学 ○兼濱さんのリサイクル ○環境科学センター見学	○学校の周りの生き物調べ ○雨水のPH調べ
	国 語 (3)	社 会 (3)	ゆとりの時間 (2)								
○森林破壊 ○大気汚染 ○水質汚染 ○ゴミ問題	○のは川のゴミ調べ ○学級のゴミ調べ ○大里のゴミはどこへ ○リサイクルプラザ見学 ○兼濱さんのリサイクル ○環境科学センター見学	○学校の周りの生き物調べ ○雨水のPH調べ									
べ											



5 主題名 「祖母の小さな実践から」

6 主題設定の理由（省略）

7 主題の指導目標

(1) 価値目標 3-(1) 自然の偉大さを知り、自然環境を大切にする。

(2) 観点別指導目標

道徳的心情・・・自然環境を守り、進んで公共のためになることをしようとするやさしい心情を育てる。

道徳的判断力・・・社会の一員としての自覚を持ち、社会のために自分のできることは何かについて考え判断する力を育てる。

道徳的实践意欲・・・環境保護の意義を理解し、社会のために奉仕しようとする態度、意欲を高める。
態度

8 指導計画（省略）

9 「祖母の小さな実践から」で育てたい学力とその評価

評価の観点	本主題で育てたい学力	具 体 的 な 評 価 項 目	評価の方法
道徳的心情	自然環境を守り、進んで公共のためになることをしようとするやさしい心情	1. 資料の祖母の考え方、心の美しさや生き方に共感し自分も社会奉仕したいという気持ちを持つ。 2. 身近にできるボランティア活動をしようとする。	・表情観察 ・ワークシート
道徳的判断	社会の一員としての自覚を持ち社会のために自分のできることは何かについて考え判断	1. 資料中の祖母の考え方や生き方を知り、自分ならどうするかについて深く考えることができる。 2. 地球環境を守る奉仕活動をどのように進めていけばよいかについて深く考えることができる。 3. 友達の感じ方、考え方と自分の感じ方と比べ、自分なりの考えをまとめることができる。	・発言内容 ・ワークシート ・発言内容 ・ワークシート ・発言内容
道徳的实践意欲、態度	環境保護の意義を理解し社会のために奉仕しようとする態度、意欲	1. これからも、奉仕活動をしたいという願いや思いを持つ。	・発言内容 ・行動観察

(1) 本時の指導目標

自然環境を大切に作るやさしい心を持ち、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つように努める

(2) 授業の仮説

道徳の時間を各教科、特別活動で学習した道徳的価値との関連を図った指導を重視し、身近な社会奉仕の実例を取り上げた資料を活用する。このような工夫をしたならば、児童の関心意欲を高め道徳的価値がより深く内面化され主体的に道徳的实践力を身に付けていくだろう。

(3) 展開

過 程	学 習 活 動	教師の支援、発問、予想される児童の反応	指導上の留意点	評 価
導 入 7 分	1、事前の国語、社会、ゆとりの時間で学習した環境問題について発表する。	①環境問題について学習した中で心に残っていることは何ですか。	・これまで学習してきた環境問題について振りかえさせ3人に発表させる。	関 心
	2、いろいろな写真を見くらべて環境破壊の現状を知り、問題点に気づく。	②これから写真を見てみましょう。 ・どこの海かな、沖縄の海と違うのかな	・一目見て、美しいなあ、きれいだなあと感じる写真と汚れているなあ、ひどいなあと感じる写真を用意する。	関 心
展 開	3、資料「祖母の小さな実践から」を読んで話し合う。	③孫のエリさんの気持ちを考えながら聞きましょう。	・登場人物、資料のあらすじを知らせ状況をおさえ、聞く観点を指示した上でテープを聞く。	関 心
	4、小学校時代のエリ	④小学校の頃、エリさんは、友達	・小学生の頃のエリさ	判 1

前 段 20 分	え る	さんの祖母に対する 気持ちを考える。	から「おまえのおばあちゃんさ、 いつも、ゴミあさって何さがし てんの、食べ物だよな」と言わ れた時、心の中ではどう思った でしょう。	んの祖母に対する心 を把握させる。 ・祖母をばかにされた エリさんの心を読み 取る。 ・皆のために掃除する 祖母の心もわからせ たい。	心 1
		5、七年後のエリさん の祖母に対する気持 ちを考える。	⑤七年後、祖母の作業を手伝って、 エリさんの気持ちは変わってい きました。「手は洗えば、きれ いになるさ」と言いながら、せ っせと掃除をする祖母を見て、 どんな気持ちになりましたか。		
展 開 後 段 13 分	み つ め る	6、今までの自分のあ り方をみつめる。	⑥今までゴミをどうしていました か。 キャンプ場、海水浴、スーパー に行ったとき飲んだり食べたり しますね。そんな時ゴミがでま す。 そのゴミをどうしていますか？ どんなゴミを捨てていました か？ 全部同じゴミ箱へ入れたのか な？ どんなふうに分けて捨てたのか な？ ⑦祖母のやっている、ゴミの分別 やトイレ掃除のようにみんなの ためになることで、あなたにで きることは、何だと思いますか	・今までの生活を振り かえさせ祖母と同じ 行為だったか考えさ せる。 ・自分も汚す側の一人 になっていたことは なかったか思い返さ せる。 ・奉仕活動をしたいと いう願いや思いを持 たせる。	心 1 心 2 実 1 判 2
	高 め る	7、先生の話を書く	⑧先生の話を書いてください	・資料「みなみは天国 へいった」をもとに 一人一人の心がけの 大切さを話し本時の まとめをする。	判 2 実 1
終 末 5 分					

(4) 授業仮説の考察

道徳の時間を各教科、特別活動と関連させながら環境問題を取り組んだため、自分達にできる環境を守る手立ては何だろうと考える姿がアンケート結果からわかった。

○多くの児童が自分でできる環境を守る行為を複数回答している。

○ゴミ拾い、分別、再利用、無駄使いをしない、人に迷惑をかけないなど多くの回答をしている。

○全ての児童が回答している。

このようなことから環境に対しての意識が高まったと考えられる。

また、身近な社会奉仕の実例を取り上げるにより、児童は、県内にすばらしい活動をしている祖母が住んでいることが分かった。祖母の考え方、心の美しさや生き方に共感し自分も社会奉仕したいという気持ちを持つことができた。

道徳の授業の感想（児童）

○町をきれいにしているおばあさんがいるので、これからは、むやみにゴミを捨てないでおこうと思った。

○リサイクルやゴミ拾いに私も協力したい。

○いろいろな勉強をしているいろいろなことが分かったのが楽しかった。ゴミを捨てたらみんなが困ったりするんだなと思った。

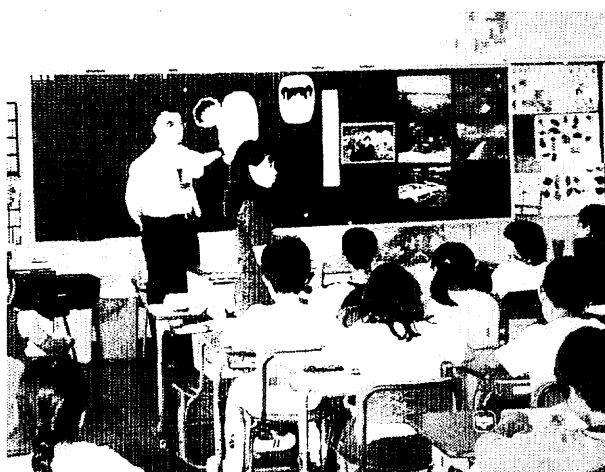
○人は、小さいことからこつこつとやるとその小さなことが、大きなことに変わることを知った。これからは、このことを忘れないようにゴミを拾いたい。

児童の感想からもこれからは、むやみにゴミを捨てない。リサイクルに協力したい。などの自然環境を守るために何かしなければいけない。という心の変容が見られた。

調べ学習（環境美化センター）



道徳の授業風景



VI 研究の成果と課題

1 成 果

○クロスカリキュラムを立てて環境問題を学習したので、児童の興味、関心が一単位すすむごとに高まり環境を守ろうという意欲が強くなってきた。

○環境問題について児童は、道徳を核にすることによりただ知識だけ学習するのではなく、心を含めた道徳性を多角的な視点から考えることができた。

○教師は、総合単元構想と長期的な指導、支援の一体化によって個に応じた指導をする機会が増えた。

2 課 題

○総合的な学習の時間におけるクロスカリキュラムを取り入れた各学年の年間指導計画の作成。

○総合的な学習の視点から考えた、今日的課題（国際理解、情報、福祉）の研究。

<主な参考文献>

押 谷 由 夫	『子どもとつくる総合単元的な道徳学習』	東洋館出版社	1997年
高 階 怜 治	『実践 クロスカリキュラム』	図書文化社	1996年
小 島 宏	『総合的な学習の創造』	教育出版社	1997年
押 谷 由 夫	『新しい道徳教育の理念と方法』	東洋館出版社	1999年